

高品質原木シイタケ 裸地伏せ栽培マニュアル



群馬県林業試験場

はじめに

群馬県の原木シイタケ栽培は、生産者の高齢化、後継者不足などにより、年々減少傾向にあります。

また、2011年3月に発生した福島第一原子力発電所の事故により拡散した放射性セシウムの影響で、原木林やほだ場、ほだ木が汚染され、多くの生産者が生産休止や廃業に追い込まれ、著しく生産量を落としてしまいました。

一方で、原木シイタケにこだわり、生産を続けている生産者や、昔ながらの味に魅了され、原木シイタケを求める消費者がたくさんいます。

そういった声をもとに、原木シイタケの生産が増加することを願って、林業試験場では調査研究を進めてきました。

原木シイタケの露地栽培は、大規模な施設が不要で、少本数から始められる栽培です。

従来からの生産者だけでなく、これから原木栽培を始める方にとっても有効な栽培方法です。

少しでも生産者と生産量が増えることを願って、このマニュアルを作りました。

原木シイタケ栽培の参考となれば幸いです。



原木入手

- ・ 原木シイタケ栽培は、原木の入手から始まる。
- ・ 自力で山から伐採するか、業者から購入する。
- ・ 樹種は、主にコナラやクヌギ、ミズナラなどが使用される。
(表-1 参照)
- ・ 群馬県内の栽培ではコナラが適している。

表-1 原木樹種別の特徴

| 樹種 | 特徴 |
|------|--|
| コナラ | 最も一般的に使われている。きのこの発生量が多く、形質も良い。生、乾、いずれの栽培にも向いている。 |
| クヌギ | 乾シイタケ栽培用に最適。大型で肉厚のきのこが発生する。乾燥しやすく、生シイタケ栽培用としては難しい。 |
| ミズナラ | 樹皮が薄く、発生するきのこは小型で発生量も少ない。 |

原木を入手する際には、必ず放射性物質検査を行い、放射性セシウムの値が50 Bq/kg以下である原木を入手する。業者から購入する場合は、数値を提示してもらおう。

伐採

※自力で伐採する場合



- ・紅葉の始まる10月下旬～12月が適している。
- ・樹木が水を吸い上げるのが止まっている時期が良い。

玉切り

※自力で伐採する場合



- ・伐採後、1～2か月間乾燥させてから行う。
- ・長さ90cm前後に切る。

駒打ち



- ・ 1月～3月頃までに行う。
- ・ 自分の栽培形態に応じた品種、種菌の形式を選ぶ。(表－2参照)
- ・ ドリルで穴を開け、種菌を打ち込む。
- ・ 原木1本あたり30駒程度、駒を打つ。

表－2 種菌の種類と特徴

| 形状 | 長所 | 短所 |
|-----|-------------------|-------------------------|
| 木片駒 | 乾燥に強い | 活着がやや遅い 駒打ちにやや労力がかかる |
| 成形駒 | 活着が早い 駒打ち作業が簡易 | 乾燥に弱い |
| おが菌 | 活着が早い 機械化が可能 | 乾燥に弱い 人力での接種は労力がかかる |

仮伏せ

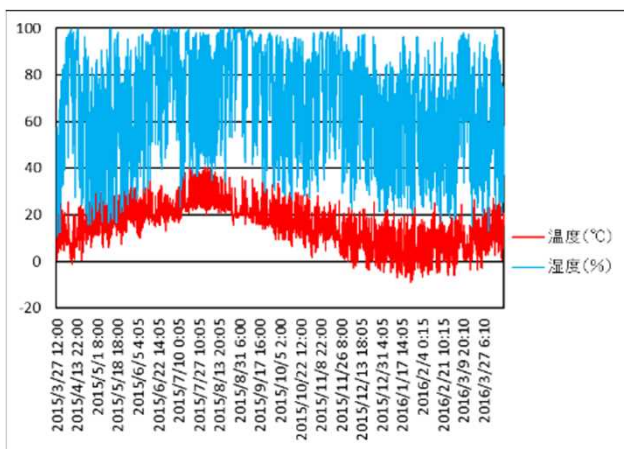
放射線の空間線量を測定し、
0.1 $\mu\text{Sv/h}$ 以下の場所を選ぶ。



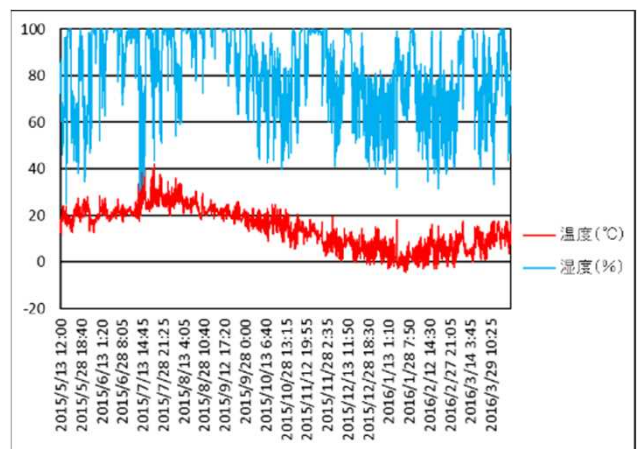
木口に発菌
した菌糸

- ・ 駒打ち後、直ちに行く。
- ・ ほだ木を、高さ50cm程度に横積みにする。
- ・ 駒打ち当日は、散水を5時間程度行う。
- ・ 散水後は稲わらで被覆する。
- ・ 週に2回、2時間程度、ほだ木全体に水がかかるよう散水する。
- ・ 木口に菌糸が発菌してくるまで続ける。
- ・ 駒打ち直後から1~2か月程度行う。

仮伏せ、本伏せには、伏せ込んだ内部の温度・湿度を安定させる効果がある。（上下変動の幅が狭い）



伏せ込み外の温湿度変化



伏せ込み内の温湿度変化